

令和6年度 双葉郡の教育に関するアンケート 集計結果報告

このアンケートは、よりよい双葉郡の教育をめざすことを目的に、双葉郡内の学校の児童生徒・卒業生の皆さん、先生方、保護者、地域の方々、地域コーディネーターの皆さん、幼稚園・保育所・こども園の園長先生方等にご協力いただいで実施しました。

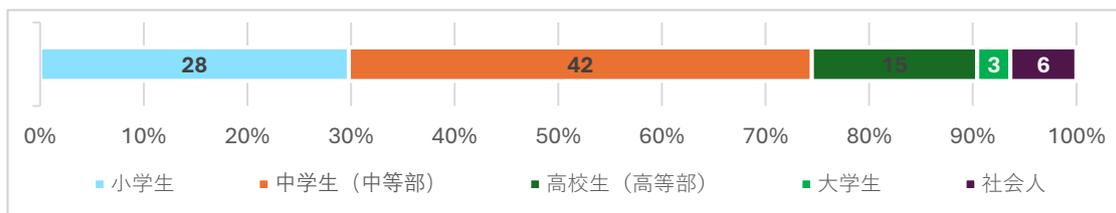
回答は、全部で200名の方々からいただきました。
(児童生徒・卒業生94名、先生方・教育関係者52名、保護者・地域住民23名、その他31名)
ここでは、児童生徒、卒業生のみなさんの集計結果をお知らせいたします。
紙面の関係ですべては掲載できませんでしたが、どんな意見が出たのが、ぜひ、読んでみてください。

みなさんのご意見は、今後の双葉郡の取り組みに生かしていきたいと思えます。

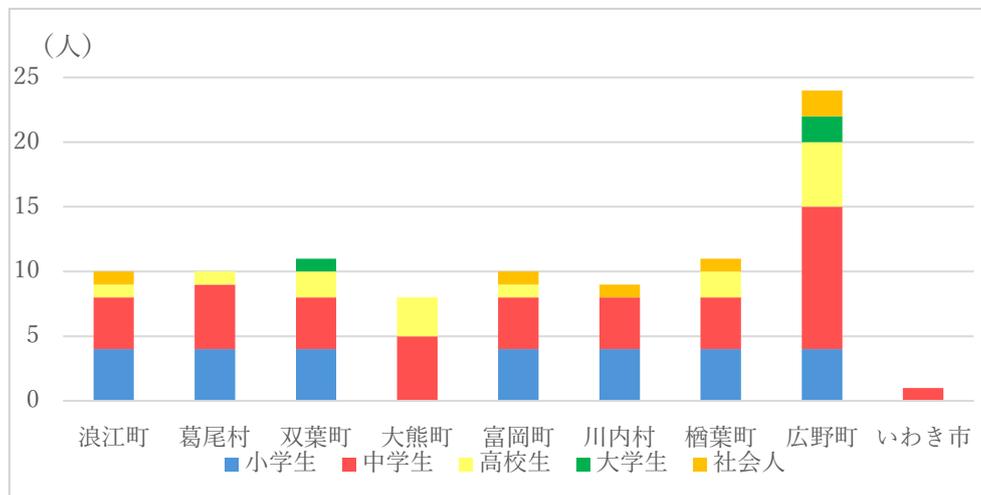
アンケートにご協力してくださった児童・生徒・卒業生の皆さん、
ありがとうございました！

■ 児童生徒・卒業生アンケート回答者情報

○ 児童生徒・卒業生内訳（94名）



○ 児童生徒、卒業生の町村別内訳（94名）



双葉地区教育長会
令和7年（2025年）2月

1. 「ふるさと創造学」であなたが身に付けたこと、勉強になることは？

水素の学習を通して、日本の温暖化などに対しての**考え方が広がりました。**
(小学生)

伝える力 考え方。
もっというろんな人に富岡の良さを伝えたい (小学生)

一つの課題をどうやったら乗り越えられるかなどを考えるうえで**想像力や課題解決能力**もつけられたと思います。また、新たな魅力を見つけていくなかで**地域の良いところを再発見**していくことができました。(中学生)

以前は自分の住んでいる町に関してあまり考えたことがなかったが、町が抱えている課題や、発信している魅力について知り、**自分ごととして考えるようになった** (中学生)



普段の学校生活とは違い、話すのが苦手な人でもサミットの日には自然と他の学校の人たちとたくさん話し、またみんなの前に出て話すことが多いから、**コミュニケーション力**が身についたと思います！
(高校生)

町の歴史を知り、震災前の変化や町の復興のための取り組みを知ったから、**故郷への想いがより強くなった**
(大学生)

とりあえずやってみたり、言ってみたり、動いてみること。
いろんな事に挑戦していくと人脈も増えるし楽しいと思えることも増えるな〜と最近感じる。
(大学生)

何事にも諦めず耐え抜く力を身につけた。答えのないこともいろいろな立場から考えること、すぐに答えを見つけなくてもいいと考えるようになった。社会には簡単に解決出来る問題が少なく、何度も考えて答えを見つけていくものだと知ったから。(高校生)

地域貢献出来るなーと？調べたり聞いたり話したり、インプットからアウトプットまできちんと出来る状況
(中学生)



自分が知らなかった町村の特産品や、それぞれの町村の行事などが知れた。交流や発表し合えることで、お互いの町村のことがわかるから。
(小学生)

発表したり、哲学対話をする**ことが勉強になる**と思う。**将来、発表したりすることにつながる**と思ったから。
(小学生)

毎年長崎市を訪れ、長崎大学と交流し、被爆地の歴史を学び、福島の実状と重ね合わせ、**復興の道筋**を学んだ。平和への思いと、それを風化させない努力を学び、村内並びに福島の復興を教わった。(社会人)

探究活動の基礎的な方法を学んだり、震災以前のふるさとをあまり知らない我々が、**ふるさととしっかり向き合える時間**が確保されていることが良いと思う。ふるさとと向き合う時間が確保されていることで、**ふるさとへの愛着心が育まれる**から。(大学生)

町の人々の職業や町の課題、**改善点を深く知れる**こと。知ることによって自分の将来にも役立てることができるから。
(中学生)

他の学校の人の発表の仕方や、他の学校や町でどのような活動をしているかが1番勉強になりました。(高校生)

自分が住んでいる町のことを知るの**は、ゆくゆくは地元に戻って何かしたいというきっかけ**になります。勉強になるとはまた違うかもしれませんが、どういう経緯で、どんな人が動いたから今の状況になっていると知るとは歴史を学ぶ以上のものだと思います。今、地元の中学校に勤めていますが、東日本大震災の実態は知っても、そこにどんな感情があり、どんな頑張りがあったのかを知る生徒は少ないです。また、震災を暗い、嫌なことだと思っている生徒もいます。人の思いを知れば震災をネガティブなものと思わないのかなと思います。(社会人)



2. 「ふるさと創造学サミット」で学んだことは？

他の人の発表を聞き、その話題について考えたり、**哲学対話で自分の意見を話すことができるようになった。**（小学生）

自分たちの学校とはちがう考え方をしている学校ばかりだったので、とても勉強になりました。考え方が広がりました。（小学生）

ほかの学校の生徒のみなさんの発表を聞いて考え方の違いなどを知れて**質問する力、聞く力**をつけることができました。（中学生）

生徒会に所属していたが、他校の生徒会やふたば未来の生徒会の生徒のみなんで企画し、実行することで**交流する力が育まれた**と思う。また、自分が住んでいる、通っている学校の地域について調べ、自分の考えを深め、サミットで紹介することにより**地域に対する愛情が深まった。**（中学生）

考えて、さらに考えて、改善してを繰り返し、**より良いものを作ろうとする力。**（高校生）

ふるさとの良さを**分かりやすく伝える力、他の発表に意見を持つ力。**（大学生）

実際に意見交流を行なってみて、双葉郡は自分たちだけではなく沢山の人が関わっていてその人たちと**地域を創造しているんだなという実感**が得られた。（高校生）

何かアイデアを出す時に「小学生の自分なら…」と**視点を変えると、おもしろいアイデアが出せる**ということ。（社会人）

復興の先駆者としての意識を高め、自分たちになにができるか、探求する意識が高まった（社会人）

ふるさとに貢献する力。ふるさとへの思いを第三者へ伝える、共有すること。**周りに伝える事の大切さ**を感じられました。（社会人）



3. 「小学校絆づくり交流会」や「中高生交流会」で学んだことは？

他の人たちと**分け隔てなく接する力**。他の学校の人たちとグループになり、一丸となってゲームを楽しくできたからです。（小学生）

ちがう学校、ちがう学年の人と関わることで、いつもとはちがう体験ができ、**コミュニケーションの力**がいたり、自分の意見を伝えたら相手はどう考えるかなど、たくさんの学びがありました。（小学生）

他校で初対面の生徒も多い中、交流をすることで自分自身の**コミュニケーション能力を向上**させることにつながった。（中学生）



普段接さない方々と交流することで**コミュニケーション能力**を身につけたり、講師のみなさまからの講演などを通して、**新しい自分の可能性**などを考える時間になりました。（中学生）

普段関わることのないような人と協力する力や**グループをまとめる力**。（中学生）

双葉郡内の同学年や同世代の人達と**絆などをふかめる力**。実際に友達を作って仲良くなれた。（高校生）

自分のことを考える力。将来の夢のお話になった際、夢についてのアドバイスをもらってから、自分には何が必要なのだろうと考えるようになった。（高校生）

協力しながら**物事をやり遂げる力**。（大学生）

震災が起きてから町や村に戻ってきた方がどこも少ないと思う。その中で郡を通して絆を深めていきたいという気持ち。**人数が少ないからこそお互いに助け合える**と思うから（社会人）

視点の切り替え方が身についたと思います。住んでいる地域・環境でも考え方は変わります。住んでいる人から話を聞くだけでも共有出来て勉強になりました。（社会人）

4. 「ふたば生徒会連合」の活動で学んだことは？

双葉郡の中学校生徒会一員として他学校の生徒会とも交流し、双葉に対する課題や願いを**考える力**。学校としてだけでなく、郡の代表として交流をし、さまざまな意見を出し合えるため。（中学生）

双葉郡がどうなったらよくなるかを**考える力**、社会のことについて考える力がつきました。普段、地域のことを考えて生活するようになったと思ったから。（中学生）

コミュニケーション能力や、**他の生徒のために出来ることを考える力**。生徒会として他の生徒に何ができるか、何をすればいいのかをよく考えていたから。（高校生）

話す機会がない他校の生徒と話せることはとてもよかったです。高校生とも話すことがあったので**高校生になったら出来ることがわかったり**中学生が探究のすごさを理解できる数少ない場だった（高校生）

コミュニケーション。
他の人と関わることがすごく楽しかった。
（社会人）



5. これら「ふるさと創造学サミット」「小学校絆づくり交流会」「中高生交流会」「生徒会連合」の行事や活動をふくめて、「こうすればもっと勉強になるのになあ」「もっと楽しくなるのになあ」と考えることは？

- いろいろな体験をしたり**みんなが関わられるようにする**といいです。（小学生）
- もっと地元の人や現地の人に**話を聞いたり実際にやったり**したい（小学生）
- 中高生交流会が生徒会以外の生徒があまり交流になっていないと思うので**もっと交流できる何か**をしたらいいと思う（中学生）
- **対話や質疑応答の時間**を増やせば満足に意見交換ができ、お互いの探究活動がよりよくなったり、自分の知りたいことをより深めることができたりするのではないかと思います。（中学生）
- 先生がこれをしましょうあれをしましょうではなく、本当に子供たちの交流を目的とするならば**子供たちが何をしたいか**を聞いて、町の発表なども大切ですが、遊びなども含めたりしたらもっと楽しく交流できると思います！（高校生）
- ふるさと創造学サミットの際、**保護者様方も見学に来たほうがいい**と思う。（高校生）
- いきなり知らない人同士で話す場合もあるので、直接話すだけでなく大きな紙を敷いて、何か書きながら話すのがいいと思います。また、グループで動く際は一人**ホスト役**がいると円滑に進むと思います。（社会人）
- 子どもに対しての貴重なインプットの機会であるため、**アウトプットの機会**を作ること（発表会など）でより自身の学びを具現化できると感じました。（社会人）

6. あなたを始めとする双葉郡内の児童生徒が、これからさらに勉強していかねばならないと考えることは？

- **東日本大震災**をもっと知りたい。生まれてなくて知らないから（小学生）
- 福島県の**防災**についてさらに勉強した方がいいと思う。防災について勉強したら災害時に役にたつから（小学生）
- 社会に繋げていくように勉強すること、社会で生きるために何が必要か。それぞれの教科で学んでいることを**社会に出てからも使えるように**したいと思うから。（中学生）
- **東日本大震災の被害や原発事故、津波の教訓**。福島県民として背負っていかねばならないものだから（中学生）
- **被災した地域の本当の姿**について。既に記憶は残っていても東日本大震災を経験したという子供達は中学生以上になってしまい、いまの小学生、そして中高生など多くの子供たちはその地域に住んでない限り地域の現在の姿を知ってもらわないといけなと思うから。（高校生）
- 自分の町のことで何を伝えていくことが大切なのかを考えることだと思います。反対に今までなかったものを作ったりして新たに今までと違う町の印象を持ってもらえるような活動をするのもいいと思います。今まで復興、復興とたくさんの町の良さなどを伝えてきましたが、反対に今までとは違って新しいことを始めたりして、昔の浪江町を取り戻すのではなく、**新しい町を自分たちでつくっていく**のもとてもいいなと思ったからです。（高校生）



- 震災後に生まれた子供たちに、どのように**震災の経験**を伝えるか、考える必要がある。また、ふるさとを知る段階からふるさとを伝え、再生する段階へと探求活動のテーマを移行すべきだと考える。震災後に生まれた子供たちに、震災の経験を風化させるべきでないと考えるから。探求活動のテーマを移行していくことで、ふるさとの再生に近づくと考えるから。（大学生）
- **エネルギー政策**。エネルギーが無ければ私たちの生活は成り立たない。原発再稼働の是非、再エネの推進や廃炉の問題も元を辿ればエネルギーの問題で、それは地球温暖化や電力価格、経済発展にまで影響する。1Fのある双葉郡の学生はエネルギー政策(特に原発再稼働の是非など)について環境へのインパクトや経済、国際情勢など多角的に分析しながら自分の意見を言えるようになる責任があると思う。（大学生）
- 震災の復興でなく、**発展するために必要なこと**だと思います。震災から10年以上経過しましたが、いつまでも「復興」と言ってもらえません。次に進むためにも、震災以前より発展するにはどうすればよいかを勉強してほしいです。（社会人）
- **ITやグローバル**に触れられる勉強。近年のグローバル化や急速な情報化、技術革新は注目すべきことであり、郡内の学生たちにはそんな世界を引っ張っていけるような大人になってほしいため。（社会人）

7. あなたが通学する学校の素晴らしいと思うこと、自慢したいことは？

児童生徒と先生の仲がいいこと。人数は少ないけど、それを感じさせないくらい、みんな仲良し。(小学生)

私の学校は難しいことにも一生懸命に取り組むことが素晴らしいところ(小学生)

演劇や哲学対話などのほかの中学校にはない授業ができる。(中学生)

クラスメート、先輩方、先生方とっても優しく、分からないところがあったら、分かるまで教えてください。(高校生)

- 先生方がとても親身になって一人一人の学習内容を一緒に考えアドバイスしてくれる。
- 一人一人の学ぶ意欲が強く、興味を持って調べていることが面白かった。
- 学校内でも発表の場が沢山あるため、緊張はするが、大勢の人前でも話すことが億劫でないこと。(中学生)

多様なバックグラウンドや目標を持った人たち(生徒に限らず、先生やカタリバ、地域の住民)がいること。(大学生)

先生方が子供たちの意見をしっかりと取り入れてくれるところだと思います。また先生方も最善を尽くして活動させてくださっていることが伝わってくるので素晴らしいと思います。(高校生)

当時の中学校は本当に全て自慢したい事だらけです。生徒はいじめなど一切なくみんながみんなを認め合っていましたし、喧嘩することもありましたが常に笑いの絶えない教室でした。先生方も本当に素晴らしい先生方で、**私達の学年は特に先生方に救われていた**と感じます。ふるさと創造学でも私達なりの学習の仕方をしていたなと感じます。先生方は私達がいかに楽しみながら学べるかを考えてくれていました。そのおかげで私達は**ふるさと創造学=楽しいという気持ち**があり、積極的に活動できていました。私には本当に自慢の中学校です。(社会人)

8. あなたが双葉郡の学校で学んだことが、大学での学びや今の職業に活かされていることは、どのようなことですか？(大学生・社会人のみ回答)

- 人の気持ちに寄り添うこと、助け合うこと、チャレンジすること
- 体力・気力・適応力。大学や海外で自分の力不足を感じることは数え切れないほどある。それでもやるしかない場面が多いが、何とかやりきる、その中で楽しむ、出来ることをやる、人より多く長くやると言った気合いをサッカー部で手に入れた。
- ふるさと創造学を通して、大学では政策学やまちづくりの研究をしようと思えるようになった。また、ふるさとを知ることで、**ふるさとを守りたいという感情**が芽生え、将来はふるさとで働きたいと思うようになった。(大学生)
- 地元で働けていることが一番だと思います。地元を知ったからこそ、**ここで役に立ちたい**とおもったので。(社会人)
- 村の文化や歴史を学ぶ機会が多かったため、**ふるさとの伝統文化を守っていき**たいと強く思うきっかけとなり、村の役場職員という今の職業につながったと感じている。(社会人)

■ 先生方、関係者、保護者、地域の方々などの声

ふるさと創造学を通して、自分の町について調べる力、地域の人とのコミュニケーション力、仲間と協力して1つの事をまとめる力などを身に付けている。また、回を重ねる毎に、自分の暮らす町が置かれている状況にも、理解を深めていると感じる。(保護者)



小学校絆づくり交流会では、双葉郡の各町村の小学生との交流や積極的な意見交換を通して、ふるさとについての意識や愛着が高まったと思われる。また、卒業生である中高生のボランティアを見て、将来やってみたいと思った児童もいたのではないと思う。(教職員)

他校の学生の研究テーマや探究の深さなどを知ることができるのはとてもいい機会だと思う。なぜそのテーマにしたのか、リサーチをどこまでしっかりしているのかなど、自分自身の状況と比較することで自分の強みや弱みを知ることができるのはよい機会だろう。そうした機会は確実にものの見方や考え方を多様にさせると思う。(地域の方)

中高生交流会では各界の一流と言われる講師陣を迎え、第一希望のクラスに入れた生徒はもちろん、そうでないクラスに入ったとしても、それぞれの講師の方々の話(人生経験やものの考え方、仕事や学ぶことに対する姿勢等)は、驚きと感動である。よく「〇〇先生の講演会(セミナー)があるから行ってみよう」と気軽にに行ける場所に住んでいない生徒たちにとって、こうした機会を与えられるというのは、これからの人生において大きなプラスになると考える。(教職員)



小学・中学時代に各種の事業を経験して入学してきた高校生の意識は高いという印象がある。これまでの交流や出会いが、高校での探究活動や生徒自身の進路活動にも大きく影響していると思う。(教職員)

地域を知って、地域のためにできる事を、地域の方々や協働でやろうとする力が育ってきていると感じています。(園長先生)

様々なことに興味関心を持ち、よく見て考え最後まであきらめずに行動できる力が大切だと感じております。達成感、自分に自信がもてるようになると思います。(園長先生)

今後ますます双葉郡の絆を深め、町村の垣根を超えた関係性を構築し、双葉郡の子ども達が双葉郡の復興のみならず世界に羽ばたく人材に育てほしい。(教育関係者)

オンラインでの交流だけでなく、直接対面した活動を通して、他者に対する理解を深めることができましたと思います。(教職員)



世界がいかに複雑化ということを知ってほしい。複雑かつシンプルに答えを出すことが難しいからこそ、私たちは学び続け思考し続け、難しさの中で決断をしていかなければいけないことを楽しみながら学んでほしい。(地域の方)

双葉郡でしか経験できないことを重ねて、『この学校、この町で学んで良かった』と思える時間を過ごして欲しいと思っています。(保護者)



■ 私たち自身、私たちの学校、町村、ビジョン等の取り組みについて

【児童・生徒・卒業生】

■ A：よくあてはまる、そう思う ■ B：すこしあてはまる ■ C：あまりあてはまらない ■ D：あてはまらない、努力したい

